



北大生と富士フィルムとの共同メタバース写真展開催

自然写真家 たかはしただてる 高橋忠照の作品展 『『探』動物撮影 方法論 ～導き出された Position～』のお知らせ

【概要】

このたび、北海道大学教養深化プログラムが協力した掲題の写真展を富士フィルム株式会社（以下、富士フィルム）のメタバース空間「House of Photography in Metaverse」にて 2026 年 2 月 27 日（金）10 時から開催いたします。

本展は 2022 年に北海道大学大学院文学研究院が開催した高橋忠照氏の作品展『『深』動物撮影 関係論』の続編にあたります。北海道大学教養深化プログラム（大学院で学んだ専門知識を実社会で役立てる実践力を養成する教育プログラム）では、企画に関わった学生の活動を、高度な専門知識をもった即戦力人材の育成の機会ととらえ、本展の制作に協力してきました。

本展では、北海道大学大学院文学院及び文学部の異なる研究室に所属する学生 4 名が企画の準備段階から作家と共同し、専門的知見に基づく主体的な活動に取り組みました。また今回は富士フィルムの主催に伴い、メタバース空間という最先端の場での実践が可能となりました。

【自然写真家 高橋忠照氏について】

自然写真家 高橋氏は元・陸上自衛隊狙撃教官（スナイパー）の経験を生かした野生動物の撮影を行っています。その撮影方法は「潜入」「トラッキング」「ストーキング」などの技術や、バイアスロンで培ったスキー技術を駆使して、自然の中に同化し野生動物を探し出す、という独自のスタイルを確立されています。

【House of Photography in Metaverse について】

House of Photography in Metaverse は、ギャラリーやデジタルカメラのショールーム、イベントスペースなどを備えた、空間内での会話が可能で富士フィルムの公式メタバースです。メタバースとは多人数が同時にオンラインで活動できる仮想空間を指します。本展も全国各地から 24 時間好きな時に訪問できます。

【本展の見どころ】

北海道大学教養深化プログラムは、大学院で学んだ専門知識を実社会で役立てる実践力の育成を掲げ、学生の支援・教育に日々取り組んでおります。本展の企画・準備には本プログラムの協力のもと、文学院及び文学部の学生 4 名が携わりました。参加する学生はそれぞれ専門分野が異なり、本展は異分野融合による実践的な取り組みでもあります。

本展の特徴は、写真展の核であり本来は作家やアートディレクターが担う「キュレーション」を学生が主導している点です。学生たちは各自の専門領域に基づきつつ、作品の選定、展示構成や順路の設計、高橋氏への聞き取り及びそれを基にした作品の掘り下げ、さらにメタバース空間内での作品配置に至るまで、企画・運営の大部分を担いました。

会場には、学生たちが制作過程を踏まえながら各専門領域や関心に基づき執筆した解説文が作品と共に展示されます。さらにギャラリートークにも学生たちが登壇し、実社会へ専門的知見を伝える力を実践的に磨きます。学生たちの眼を通した鑑賞体験が、高橋氏の作品世界をより深く味わう一助となれば幸いです。

【日 程】 2026年2月27日（金）10時00分～3月13日（金）9時30分

【場 所】 House of Photography in Metaverse パノラマギャラリー

アクセスは以下の URL、または右の QR から

<https://houseofphotography-jp.fujifilm.com/>

リンク先ページの【ENTER】ボタンよりエントランスホールへお入りいただき、パノラマギャラリーにご来場ください。

※推奨環境はこちらの URL からご確認ください。

<https://houseofphotography-jp.fujifilm.com/guide/#recommended-env>

【主 催】 富士フイルム House of Photography in Metaverse

【作品撮影】 高橋忠照（公益社団法人 日本写真家協会（JPS）会員）

【協 力】 北海道大学 教養深化プログラム

北海道大学 大学院文学研究院・大学院文学院・文学部

平川全機 ひらかわぜんき [北海道大学 大学院文学研究院 教養深化プログラム 特任助教]

今村信隆 いまむらのぶたか [北海道大学 大学院文学研究院 芸術学研究室 准教授]

【対 象】 どなたでも参加可能

【観 覧】 無料

【言 語】 日本語

【参考 URL】 展示情報 <https://www.let.hokudai.ac.jp/event/28323>

【イベント】 ギャラリートーク

日 程：3月10日（火）19時30分～20時30分

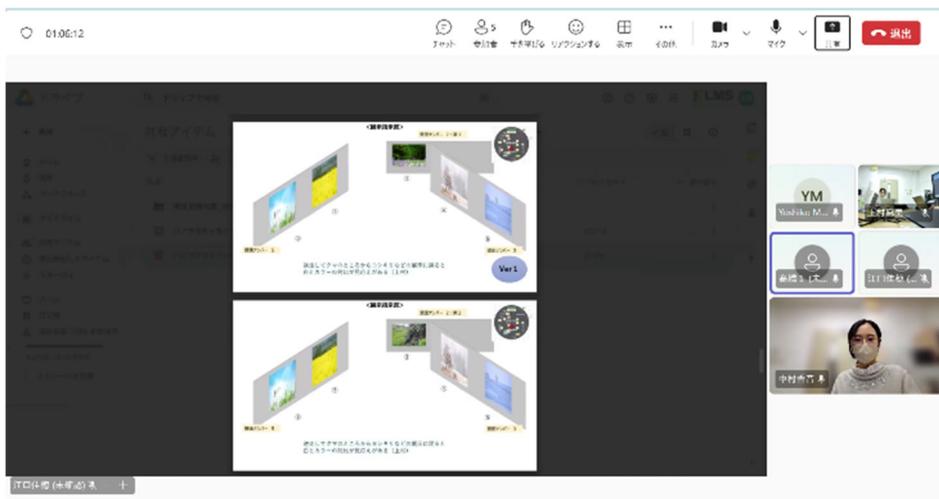
登 壇 者：高橋忠照、本展企画学生メンバー3名

参加申込：不要 / 時間になりましたら、House of Photography in Metaverse の展示会場にお集まりください。※定員 100名 先着順



（左）本展会場の様子（画像は制作中のものです。実際とは異なる場合があります。）

（右）学生が作品の配置を検討している様子



学生が展示作品を選定している様子

お問い合わせ先

北海道大学大学院文学研究院教養深化プログラム 特任助教 平川全機（ひらかわぜんき）

T E L ・ F A X 011-706-2302 メール cuemp@let.hokudai.ac.jp

U R L <https://cep.let.hokudai.ac.jp/>

配信元

北海道大学社会共創部広報課（〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール jp-press@general.hokudai.ac.jp

— 自然写真家 高橋忠照のロジックを「探」る —

探

動物撮影方法論

〜 導き出された Position 〜

2026

2.27 Fri → 3.13 Fri

初日は 10:00 から

最終日は 9:30 まで

主催：富士フイルム House of Photography in Metaverse

作品撮影：高橋忠照（公益社団法人日本写真家協会（JPS）会員）

協力：北海道大学 教養深化プログラム

北海道大学 大学院文学研究院・大学院文学院・文学部

House of Photography
in Metaverse



展示会場はこちら



— 観覧無料 —



© Tadataeru Takahashi

「探」

動物撮影 方法論

～導き出された Position～

自然写真家・高橋忠照氏は元・陸上自衛隊狙撃教官（スナイパー）の経験を生かした野生動物の撮影を行っています。

その撮影方法は「潜入」「トラッキング」「ストーキング」などの技術やバイアスロンで培ったスキー技術を駆使し、自然の中に同化して野生動物を探し出す、という独自のスタイルを確立させたものです。

本展示は、2022年に北海道大学大学院文学研究院で開催した『「深」動物撮影関係論 ～写真家高橋忠照と出会った動物たち～』の続編として高橋氏の軌跡を追います。山の麓や雪原、草原で生きる野生動物を「探して」みることはもちろん、高橋氏の「探究する」執念深さにも触れることができるでしょう。野生動物が息づく大地ごと、その生命の躍動をメタバースの空間でご堪能ください。

自然写真家 高橋 忠照

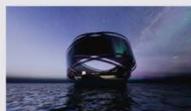
(公益社団法人 日本写真家協会 (JPS) 会員)



【近年の実績】

- 2020年『元スナイパー自然写真家 高橋忠照の世界』
- 2021年『STEALTH スナイパーが撮る北の野生』
- 2022年『「深」動物撮影 関係論 ～写真家 高橋忠照と出会った動物たち～』
高橋忠照写真展『北海道の癒しの動物たち』
- 2023年 高橋忠照写真展『瞬撮 ～見つめる命～』
- 2024年 富士フィルム HoP in Metaverse 写真展
『晩春初夏の北海道 ～彩の主役たち～』

House of Photography in Metaverse



「写真とカメラ好きが集う House of Photography in Metaverse」
ギャラリーやデジタルカメラのショールーム、イベントスペースなどを備えた富士フィルムの公式メタバースです。2024年2月のオープン以来、様々な写真展やトークイベントを開催して参りました。全国各地から24時間お好きな時にお越しいただくことができるのはバーチャル会場ならではの。本写真展でも、場所と時間の制約を超えて、メタバースでこそ実現可能な没入体感と、リアルギャラリーさながらの臨場感をお楽しみください。

【ギャラリートークのご案内】

日 時：2026/03/10 (火)
19:30 - 20:30

参加費：無 料

定 員：100名

申し込み：不 要 / 先着順

参加方法：時間になりましたら、HoPの
展示会場にお集まりください。

登 壇 者：高橋忠照
江口佳穂、上村麻里恵、中村香音



推奨環境や動作方法はこちらの
ガイドページを御覧ください。

企画・制作

江口 佳穂 [北海道大学大学院 文学院 博物館学研究室 博士後期課程2年]
上村 麻里恵 [北海道大学大学院 文学院 芸術学研究室 博士後期課程2年]
中村 香音 [北海道大学大学院 文学院 文化人類学研究室 博士後期課程3年]
中山 広貴 [北海道大学 文学部 文化人類学研究室 学部4年]

協力

平川 全機 [北海道大学 教養深化プログラム 特任助教]
今村 信隆 [北海道大学 大学院文学研究院 芸術学研究室 准教授]
印刷デザイン：上村 麻里恵
監 修 ：中村 香音

お問い合わせ

